福井県社会福祉協議会

平成元年４月13日　（毎月１日発行）
平成26年６月１日発行

ふれあいネットワーク

ふくい社会福祉

6
No.401

つないでキラリ☆ まち・ひと・えがお。

温故知新 ～一途に社協道～

池田追分

池田追分保存会　会長　山﨑　光男 さん（池田町）

池田追分は、秋の豊饒祭りの頃に踊ったのがその発生で、秋の活気ある収穫の様子と喜びを表した踊りです。

踊りは、男舞が勇壮活発に下駄を鳴らし地面を蹴って踊るのに対し、女舞は男舞に調子を合せながら餅搗きの臼とりのように呼吸をぴったりと合わせて踊ります。

早いリズムで激しく身体を揺らしながら踊るため、とても体力を消耗します。

この踊りは、男女が全く異なる振りを同時に踊り、楽器も一切使わず、唄手拍子、下駄の音だけで踊るという非常に珍しい踊りです。昭和48年には、県の重要無形文化財に指定されました。

池田追分保存会は、昭和45年に設立され今年で44年目を迎えます。現在17名の会員がおり、６月９日の池田の大祭やお盆、県外のイベント、お祭等で踊りを披露しています。

池田追分は、音頭取りが故郷の集落の様子を即興で歌うのに合わせて踊り、だんだんリズムを早めて盛り上げてゆくのが見せ場です。皆が心得たように息を合わせ、踊りを通じてひとつになる。そんな感覚を分かち合えるのが、踊るものだけに与えられた醍醐味です。永年踊り続けたリズムが身体に染みついており、練習をしなくても一発で調子が合います。会員の平均年齢は75歳を超えていますが、年齢を重ねるごとに奥深く味わい深い踊りとなっています。

今後も郷土の伝統芸能を継承していくために、地元の小中学校に出向き子どもたちに踊りを教えています。難しい振りですが、少しでも多くの子どもたちに踊りの楽しさを知ってもらえたらと思い、ついつい指導に熱が入ります。

温故知新

１年を通して行われる祭りには「祈りや感謝そして願い」といった人の願いがこめられています、だからこそ代々受け継がれてきた祭りを大切に守り、次世代へと繋いでいます。

そのことを踏まえ、地域と密接な関わりがある祭りに焦点をあて、福井県内の祭りをシリーズで掲載していきます。

この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

[就職内定者応援セミナー]
受講 63 名
[人材新規就業支援]
介護職員初任者研修コース:求人512名、求職 80 名（採用 60 名）
[ふくい福祉就職フェア]
年 2 回、参加 120 事業所、参加者 382 名、就職者 55 名
[ふくしジョブミニパーク（地域型面談会＆講座)] 県内 4 地区、参加 76 事業所、参加者 150 名（就職者 25 名）
[月例面談会「マンスリーミーティング」 54 事業所、参加 114 名（就職者 5 名）
[ふくしの仕事まるわかり講座] 27 回、受講者 470 名
[無料職業紹介] 求人 1,580 件（2,821 名)、求職 1,425 名、紹介 392 名、就職者 244 名／相談 6,954 件、夜間相談 43 件
[東日本大震災被災者職業紹介] 求人 67 件（200 名)、求職 2 名
[巡回訪問] 施設巡回訪問：19 か所、学校訪問説明会：参加者 71 名
[調査研究] 紹介就職者現況、介護福祉士養成機関・保育士養成機関新卒者の進路情報

3 福祉事業の経営に関する相談支援体制の強化

◆福祉施設経営指導
[巡回訪問] 60 法人、相談件数 464 件
[研修・セミナー] 6 コース、受講者 438 名
[経営支援] 経営指標作成／経営指導連絡協議会（1 回）

4 福祉サービスの評価･公表制度等を活かした事業所支援

◆介護サービス情報の公表
[指定情報公表センター] 16 区分、公表 1,168 事業所
[情報公表調査] 136 事業所

◆福祉サービス第三者評価･地域密着型サービス外部評価
[第三者評価推進組織] 基準等委員会（1 回)、調査員継続研修（1 回、52 名）／評価事業：確定 8 事業所
[地域密着型外部評価] 認知症グループホーム 54 事業所、小規模多機能型居宅介護施設 53 事業所

◆職場環境・働く意欲づくりへ
[福利厚生センター] 加入 48 法人、加入者 2,585 名／地方委託講習会：受講 18 名、会員交流企画：16 事業、参加者 5,326 名／関連企画：13 メニュー、参加者 2,526 名
[施設職員退職共済事業] 加入 183 法人（502 事業所)、加入者 7,248 名

5 県域の福祉ネットワーク組織や職能団体への支援

[各種別協議会活動への協力、助成]
[異業種福祉実践（職員交流）研修] 参加者 8 名
[施設の災害対策支援] 経営者セミナー：受講 54 名、施設防災マネジャー養成研修：受講 53 名

6 福祉サービスの苦情解決の機能と支援体制の強化

[運営適正化委員会] 年 6 回
[関連研修] 1 回、受講者 266 名
[事業所訪問相談] 訪問 33 事業所
[苦情・相談の受付] 苦情 33 件、一般相談 22 件

7 総合相談・自立生活支援体制の強化

◆生活福祉資金貸付
[貸付] 申込142件（承認139件)、貸付決定額38,156千円
[相談] 3,019 件、専任相談員配置 13 名（県社協 3 名、市町社協 10 名／償還指導 389 名、督促件数 1840 件

◆日常生活自立支援（高齢者･障がい者の権利擁護等）
[相談、利用契約・研修] 相談 17,735 件、契約 145 件（累計 1,226 件、利用者 511 名／研修：5 コース、受講者 219 名

8 相談・支援機関とのネットワーク強化とセーフティネット構築

[高齢者専門相談窓口の開設] 4 分野
[福祉用具・住宅改修] 専門相談員の登録 63 名、出張相談 5 件（派遣 8 名)、一般相談 186 件

Ⅳ 元気で信頼される福井県社協づくり

1 事業活動や経営に参画する仕組みの強化

[適正な法人運営] 正副会長 1 回、理事会 4 回、評議員会 4 回、監事監査

[財政基盤づくり]
チャリティーアート展（協賛 130 名、150 作品）開催、寄附金の受領・活用（福祉車両寄贈）

2 発展強化を図る経営分析等の仕組みづくり

[つないでキラリ☆プロジェクト] 2 テーマ

3 業務の目標管理、職員のスキルアップ、コミュニケーション

[職員の業務・育成支援]
[スキルアップ(Off-JT)研修派遣] 7研修､受講者23名
[社内マガジンの発行] 年 4 回
[職員衛生委員会の設置運営] 8 回、3 研修

4 財務活動の推進と情報開示

[各種基金の運用] 5 基金
[広報誌の発行] 年 10 回、1 回 3,600 部
[ファクス情報配信] 年 25 回

5 顕彰等を通じた関係者との信頼関係づくり

[県社会福祉大会表彰] 個人 183 名、14 団体、2 社
[全国社会福祉大会表彰] 個人 21 名
[厚生労働大臣表彰] 個人 7 名

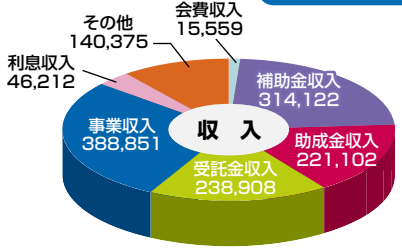
6 福井県社会福祉センター指定管理業務の推進

[サービス向上・利用促進] グリーンカーテン設置、不審者対応訓練、災害時避難所運営に係る資機材等の整備
[福祉体験学習受入] 年 22 回、参加者 398 名

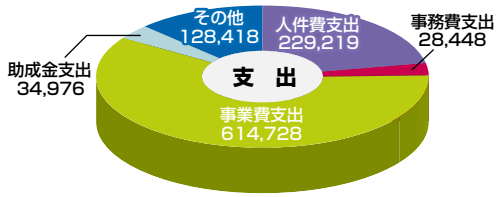
平成25年度収支決算書の概要

（単位：千円）

※ 経常的な事業活動の収支状況



1,365,129 千円



1,035,789 千円

平成 25 年度決算による福井県社会福祉協議会の経常的な事業活動のための収支状況について、その概要（イメージ）をご理解いただくためにグラフとして表現したものです。
「その他収入」および「その他支出」については、それぞれ資金移動にかかる繰入金収入・支出（いずれも 117,166 千円）が含まれます。

平成25年度 事業報告

平成２５年度は、「第3次ふくい地域福祉プラン21（5か年計画）」（4年次）に基づく事業活動に加え、生活困窮者支援に向けた推進体制づくりなど時宜の課題にも積極的に取り組んだ。事業の概要は以下のとおり。

Ⅰ 福井でのすこやかな暮らしを支える つながりの輪づくり

１ つながりの輪で支えあう県民意識の創造

◆すこやか長寿センター

［チャレンジ塾］ 22 塾（365 名）、活動発表（シニア・アート展）130 点

［アクティブシニア養成講座］ 3 コース、受講者 32 名

［アクティブシニアの登録］
登録：109 名・団体

［パソコン講習］ 8 コース、受講者 350 名、出張講習会 7 回、43 名

［全国健康福祉祭（高知大会）選手派遣］ 156 名

［ふくい健康長寿際2013（坂井・あわら市）］ 参加者4,210名

［広報誌「福悠人」発行］ 年 6 回（1 回約 21 万部）

［高齢者ラジオ放送講座］ 受講者 111 名

◆介護実習・普及センター

［家庭介護講座／介護出前講座／高齢者介護講演］ 8 回、受講者 112 名／ 79 回、受講者 2,128 名／ 1 回、受講者 267 名

２ 地域でつながりの輪づくりに参加する人材の発掘と養成

［地域見守りフレンズ育み講座］ 96 回、受講者 3,434 名

［地域コミュニティパートナー養成研修］ 17 地区、受講者 813 名

３「つながれボランティアの輪推進運動」の啓発

［広報啓発］ ポスター・チラシ、ラジオ放送等

［エコキャップアートコンテスト］
応募 34 点（入賞 6 点）

［サマーボランティア体験］
158 メニュー、参加者 453 名

［ボランティア作文コンクール］ 応募 716 点（入選 21 点）

［「ふくい・つながりフォーラム2013」］
来場者 500 名、福祉大会・席上揮ごう・記念講演・特別支援学校作品展等

［まごころ基金助成］
34 団体、助成額 5,938 千円

［世代間同居促進事業の実施］ ホームシェアに関する懇談会

４ 地域ぐるみの「福祉教育」の推進

［地域ぐるみの福祉教育推進助成］ 17 市町社協への助成

５ 地縁・知縁のつながりを広げる協働・共同の場づくり

◆関係機関との連携・協働

［民生委員児童委員活動］、［企業等ボランティア・社会貢献連絡会］、［県災害ボランティアセンター連絡会］

Ⅱ 福井のふくし活動をけん引する 社協のブランドづくり

１ 住民の福祉活動を支える社協の「見える化」の推進

◆市町社協との協働

［県市町社協会長会］ 岩手県沿岸地域応援募金への拠金

［市町社協トップセミナー］ 年 1 回、参加者 57 名

［市町社協課題解決戦略会議］ 年 3 回、参加者 109 名

［ボランティアセンター実践研究会］
年2回、参加者42名

２ 住民の福祉活動を応援するワーカーのスキルアップ

［社協ワーカー養成研修］ 3 コース、受講者 63 名

［ボランティアコーディネーター研修］ 年 1 回、30 名

３ 住民の福祉活動を活かした地域のセーフティネットの構築

◆災害時における社協相互支援体制づくり

［実地訓練］ 検討会 2 回、一斉訓練（広域 3 ブロック割）、総括会議 1 回

［市町社協書職員防災士資格取得支援（助成）］ 9 名

［北陸 3 県内社協災害支援合同研修］ 1 回、63 名（本県参加 23 名）

◆地域の支え合い活動の啓発

［ふくい・つながりフォーラム 2013］ ※再掲

◆地域コミュニティ再生のための災害支援活動

［「台風 18 号豪雨災害」における被災地支援活動］ 県内社協による人的支援 8 日間、106 名

［3.11 希望の灯りでつなぐ絆プロジェクト］
希望の灯りの一斉点灯

◆地域で支えるセーフティネットづくり

［勉強会］ 年 1 回、参加者 38 名

４ 市町社協を元気にする経営課題の分析と支援策の強化

［ステップアップミーティング］ 年 4 回、参加者 85 名

５ 市町社協の「見える化」への支援

◆社協による地域福祉推進研究活動

［小地域福祉活動推進分科会］ 年 5 回、参加 59 名

［社協組織・事業強化分科会］ 年 5 回、参加 90 名

Ⅲ 福井の福祉を高い専門性で支える サービスの基盤づくり

１ 福井の福祉・介護を支える専門職像の明示と育成策の強化

◆社会福祉研修所

［独自研修］ 31コース（35課程）、62日、受講者2,815名

［受託研修］ 7コース（11課程）、149日、受講者916名

［介護支援専門員実務研修受講試験］ 受験者 1,127 名（合格率 16.1％）

◆介護実習・普及センター

［介護職員等研修］
4 事業、187 回、受講者 3,883 名

２ 福井の福祉・介護を支える人材の発掘と定着の強化

［介護福祉士等修学資金貸付］ 貸付累計 73 名

◆福祉人材センター

［人材マッチング支援］ 移動相談：2 地区、99 回、参加者 225 名／事業所訪問：68 日、75 か所

介護力向上講習会開催

（福井県老人福祉施設協議会主催）

〝介護老人福祉施設 水仙園〟が おむつゼロを達成

介護力向上講習会は「5つ（おむつ・骨折・胃ろう・拘束・褥瘡）のゼロ」と「4つ（認知症ケア・看取りケア・リハビリテーション・口腔ケア）の自立支援」の実現を目指して、全国老人福祉施設協議会が主催し、平成16年より毎年東京で開催されています。

平成25年5月には、科学的根拠に基づく「自立支援介護」の理論と実践の習得、併せて日中おむつ使用率ゼロを目指して、福井分校が開校されました。

福井分校には県内介護老人福祉施設40施設が参加し、国際医療福祉大学大学院教授の竹内孝仁先生より指導を受けました。1年を通じて6回の講習では、水分・食事・下剤・歩行そして、排泄場所など毎回厳しい課題が出され、各施設で積極的に取り組まれました。

水仙園では、これまで何度もおむつゼロを目指して取り組みましたが、残念ながら目標を達成することができませんでした。今回、おむつゼロを達成することができたのは、〝何としても目標を達成して利用者さんの自立支援につなげたい〟と全職員が一丸となって取り組んだ努力の成果だと思います。

施設の全面バックアップのもとで、目標達成までの経過をご紹介します。

最初に行ったのは、福井分校開校までに科学的介護（水仙園では〝竹内理論〟と言っている）について全職員が理解しておくことでした。そのために、**竹内先生執筆の科学的介護に関する書籍を各職種に配布し読み込みました。**これにより科学的介護への理解が深まり、目標達成には『職員全員の力の結集（チームケア）が不可欠』という意識の統一を図ることができました。

開校後に行ったことは、次のようなことでした。

❶嘱託医・理学療法士への説明

科学的介護について説明し、おむつゼロへの取り組みに理解と協力を得られたことで大きく動き出しました。

❷ご家族への説明

科学的介護（おむつゼロに向けて）の取り組みについて、理解と協力を得るための書面を送付しました。また、取り組みの経過と結果を平成26年3月に報告させていただくことを玄関に掲示しました。

❸〝科学的介護〟の実践

具体的には、⑴水分（食事以外）1500cc以上の摂取、⑵食事1500kcal以上、お粥・キザミ食からご飯など常食へ変更、⑶下剤を中止しセンナ茶・食物繊維ファイバーの活用、⑷つかまり立ち5秒可能なら歩行へ移行などを行いました。しかし、実際に取り組み始めると様々な問題が生じ、スムーズに進まないことも多く出てきました。それらに対しては全職種参加による介護力向上委員会（毎月）や個別ケア会議（毎週）を実施しました。それぞれの職種から専門的対応策を出し合い、目標達成に向けて問題をクリアしていきました。

❹ハード面（トイレ等）の対応

職員の知恵や工夫などソフト面と併せてハード面の対応なくしては、どうしても解決できないことも出てきました。おむつゼロにするには、トイレまたは、ポータブルトイレで排泄する必要があります。

そこで、現行のトイレを利用者さんに負担が少なく、職員二人が余裕

を持って介助できるように改修を行いました。さらに、トイレへの移動・移乗が困難な利用者さんのために、ベッドからの移乗が容易で負担や不安の少ないポータブルトイレを新たに購入しました。それらのハード面の充実・活用により、目標達成へ急進することができました。

❺歩行用具等の充実

水分・栄養摂取量の増加とともに、歩行できる利用者さんが増えました。そこで、歩行能力に応じた歩行器を新たに購入・活用することで、利用者さんの歩行意欲も一層高まりました。軽快な音楽が流れる中でそれらを使用して歩行する、朝夕2回の『ウォーキングタイム』は、今や水仙園の名物の日課となっています。

以上のようなソフト・ハード両面からの取り組みにより、目標を何とか達成することができました。

竹内先生は、

○ケアの質について一番わかりやすい指標は「おむつ使用率」である

○おむつはずしに手をつけようとすれば施設で行われているケア全体をレベルアップするしかない

○おむつを外した瞬間に利用者が生き生きすること、その瞬間に立ち会えるケアを展開できるように職場を変えていかないといけない

と言われています。実際に「おむつ使用率」ゼロになったことで、水仙園の中が以前と比べて大きく変わりました。

今回の取り組み前には想像もできませんでしたが、利用者さんの中で要介護5で長年、車イスで移動されていた方が、杖を使用して歩行できるようになりました。利用者さん本人は歩行できるようになったことで表情も明るくなり意欲的になるとともに、ご家族も大変な驚きと喜びで外出や外泊の機会が増えました。

今年3月に、おむつゼロへの取り組み（科学的介護）の結果を利用者さんのご家族に報告したところ、たいへん喜んでいただきました。また、職員も目標を達成することができ自らのモチベーションを向上させることができました。

利用者さん全員が下剤を使用せず自然排便となったことで、日中おむつ使用率がゼロになり、長年歩行できなかった方が歩行できるようになりました。このことには、嘱託医や理学療法士もこれまでの経験からもとても信じられないことだと驚嘆されていました。

今回の取り組みにより目標を達成できたことは大変うれしく、職員の介護に対する大きな自信につながりました。職員からは、今後おむつゼロだけでなく様々なことに取り組んでいきたいと前向きな意見が出てきています。

しかし、何よりうれしかったことは、利用者さんが見違えるほど元気になり、生活が劇的に変わったことです。利用者さんの笑顔が増えて水仙園の中が明るくなり、職員との関係も深まったように思います。

今回の日中おむつ使用率ゼロの達成は、私たちにとって目標としたゴールかもしれません。しかし、これを機に一人でも多くの利用者さんの自立支援に向けて介護のレベルアップを図れるように、専門性をより一層高めていくことが大切ではないかと思います。それこそが職員本来の役割と使命であり、利用者さん・ご家族・地域から信頼される施設になっていくと思っています。これからも利用者さんの笑顔と元気のために頑張っていきたいと思います。

これまでに県内介護老人福祉施設では、渓山荘、藤島園、第三光が丘ハウス、第2渓山荘ぽっぽが日中おむつゼロを達成しています。

賛助会員名簿

お寄せいただきました会費は、一人ひとりの尊厳が守られる社会構築を目指し、地域福祉を総合的に推進するさまざまな活動に役立てさせていただきます。

平成 26 年 1 月 6 日～ 5 月 16 日【敬称略・50 音順】

市町名	名　称
福井市	社会福祉法人　足羽福祉会
	株式会社　アタゴ
	株式会社　安部書店
	アルマ千寿
	株式会社　石川コンピュータ・センター
	井上商事株式会社
	株式会社　ウララコミュニケーションズ
	栄月株式会社
	SMBC 日興証券株式会社　福井支店
	有限会社　康守商会
	江守商事株式会社
	大原スポーツ医療保育福祉専門学校
	大脇　佳代
	有限会社　奥義肢製作所
	奥武建設工業株式会社
	株式会社　カツクラ
	学校法人　金井学園
	株式会社　カワグチ
	河和田屋印刷株式会社
	木村興業株式会社
	銀扇福井株式会社
	久我　元
	有限会社　ケア・フレンズ
	医療法人　厚生会
	社会福祉法人　寿の会
	小林電工株式会社
	医療法人喜生会　小林クリニック
	コマツサービスエース株式会社
	衣目織物株式会社
	サカセ化学工業株式会社
	株式会社　シー・ディー・アイ
	株式会社　ＪＴＢ中部
	株式会社　システム研究所
	医療法人 健康会 嶋田病院
	株式会社　昭和堂
	財団法人　積善会
	瀬戸　百合子
	創文堂印刷株式会社
	大栄株式会社
	株式会社　大和印刷所
	大和電建株式会社
	株式会社　タッセイ
	株式会社　田中化学研究所
	だるま屋商事株式会社
	中部インテリア株式会社
	冨永病院
	株式会社　ナイガイ

市町名	名　称
	株式会社　ナレッジウエア
	新田胃腸科放射線科病院
	財団法人　日本電信電話ユーザ協会福井地区協会
	ネッツトヨタ福井株式会社
	株式会社　野村塗装店
	株式会社　端野メディカル
	光タクシー　有限会社
	平田鉄工株式会社
	福井医療株式会社
	福井県環境保全協業組合
	株式会社　福井観光トラベルサービス
	株式会社　福井銀行
	株式会社　福井建材社
	福井県生活協同組合連合会
	社団法人　福井県ビルメンテナンス協会
	福井県済生会病院
	財団法人　福井市ふれあい公社
	福井信用金庫
	学校法人　福井仁愛学園
	福井新世紀ケアサービス
	福井総合病院
	福井テレビジョン放送株式会社
	フクイボウ株式会社
	福井放送株式会社
	福井ヤクルト販売株式会社
	福泉信用組合
	株式会社　福邦銀行
	藤田製本印刷株式会社
	株式会社　ホクシン
	株式会社　ホリタ
	前田建設工業株式会社　福井営業所
	財団法人　松原病院
	ミカミ看板
	水野公文堂
	みずほ証券株式会社 福井支店
	三谷設備株式会社
	株式会社　ミツノリ
	ムラセ看工店
	株式会社　名響社
	メイプルケア有限会社
	屋敷事務用品
	株式会社　山崎塗装店
	株式会社　ユアーズホテルフクイ
	陸整自動車株式会社
	隆機工業株式会社
	株式会社　リンクコーポレーション
	和田保育園

市町名	名　称
敦賀市	医療法人　保仁会　泉ヶ丘病院
	医療法人　積善会　猪原病院
	株式会社　かくだ　敦賀ケアセンターかくだ
	医療法人　敦賀温泉病院
	株式会社　ミヤゲン
小浜市	小浜製綱株式会社
	株式会社　木内計測若狭支社
大野市	デイホームひだまりでぃ
勝山市	サンビューかつやま
鯖江市	株式会社　ウォンツ
	医療法人日野会 谷川病院
	福井トータルケア株式会社
	合資会社　藤田印刷所
あわら市	坂井地区医師会
越前市	株式会社　オーシンＭ．Ｌ．Ｐ
	医療法人　笠原病院
	株式会社　国府印刷
	シルバーハイツ武生
	福祉関連企業連携グループ　Scrum
	大和建設株式会社
	医療法人 白百合会 武生記念病院
	株式会社　テクニカフクイ
	医療法人 林病院
	株式会社　ふじや食品
坂井市	株式会社　サカイ・ミート
	社会福祉法人　坂井来春会
	サンキ株式会社
	株式会社　三和商会
	第一織物株式会社
	東尋坊ひまわりの丘
	春江電子株式会社
	福井システムズ株式会社
	前田工繊株式会社
	医療法人 慈風会 宮崎病院
南越前町	医療法人　加藤医院
越前町	丹生ケアセンターひまわり荘
	ライフガード越前朝日
美浜町	山崎　俊太郎
高浜町	高浜社会保険介護老人保健施設　サンビュー高浜
若狭町	今井技研　アイちゃん堂
	株式会社　前田産業
	介護老人保健施設　ゆなみ
県　外	中央法規出版株式会社
	白石薬品株式会社

寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

4月23日（水）
寄付者
磯山　霊秀氏（福井市）
寄付金　10万円

磯山　霊秀 様

4月23日（水）
車いす　5台
株式会社ムラタ 様（福井市）

株式会社ムラタ 様

寄贈先
あさくら苑デイサービスセンター 様
デイサービスセンターメゾンいまだて 様
デイサービスセンターうぐいすの里 様
大野和光園デイサービスセンター 様
プライムハイツ春江デイサービスセンター 様

社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

新会計基準への移行に伴う財務・会計処理上の疑問点を掲載します。

Q1　新会計基準で事業区分、拠点区分、サービス区分によって、作成を省略できる財務諸表の様式があるそうですが、どのような場合ですか。

A

1．**事業区分が社会福祉事業のみの法人の場合**
第１号の２様式、第２号の２様式及び第３号の２様式の作成を省略できます。

2．**拠点区分が１つの法人の場合**
第１号の２様式、第１号の３様式、第２号の２様式、第２号の３様式、第３号の２様式及び第３号の３様式の作成を省略できます。

3．**拠点区分が１つの事業区分の場合**
第１号の３様式、第２号の３様式、及び第３号の３様式の作成を省略できます。

4．**サービス区分が１つの拠点区分の場合**
●拠点区分資金収支明細書・拠点区分事業活動明細書の２種類の付属明細書を省略できます。なお、「サービス区分が１つの拠点区分」以外の拠点区分（サービス区分が複数）については、作成を省略できません。

＊いづれの場合も、財務諸表の注記にその旨を記載する必要があります。

Q2　旧会計基準で、研修に係る参加費を「研修費」、その交通費を「旅費交通費」に計上していました。内部規定にもその旨制定しております。新会計ではどうなりますか。

A

新会計基準では研修に係る参加費、交通費、宿泊費、テキスト代等を「（事務費）研修研究費」に計上します。規定は改定してください。

＊福井県社会福祉協議会　福祉施設経営相談室のホームページに、相談Ｑ＆Ａとして各法人における疑問点等を掲載しております。ぜひ、ご利用ください。また、ご相談をメールにより経営相談室の相談申込でもできますので、ご利用ください。

なお、ご利用にあたってご不明な点がございましたら経営相談室（ＴＥＬ：0776-24-2347）までお問い合わせください。

福井県生活困窮者就労・自立支援モデル事業

福井県自立促進支援センター

くらしごとさぽーと（略称「くらさぽ」）のご案内

※本モデル事業は、福井県からの委託を受けて福井県社会福祉協議会が実施するものです。

お電話・来所・訪問等、ご希望の方法で相談に応じます。

※来所の際は、事前にお電話で日時をご連絡ください。

【相談受付】　月～金曜日／9～17時

※祝日・年末年始（12/29～1/3）を除く　※相談無料・プライバシーは守ります

福井本部センター
（福井健康福祉センター1F）

フクイ　ササエル
0120-291-331

所 在 地：〒918-8540　福井市西木田2-8-8
電話番号：0776-36-7835
FAX番号：0776-36-7836
Eメール：f-kurasapo@f-shakyo.or.jp

嶺南相談窓口
（二州健康福祉センター2F）

ニッコリ　ササエル
0120-215-331

所 在 地：〒914-0057　敦賀市開町6-5
電話番号：0770-22-3736
FAX番号：0770-22-3738
Eメール：r-kurasapo@f-shakyo.or.jp

ふくい社会福祉 6　ふくい社会福祉　第401号　●編集　総務企画課
●発行　平成26年6月1日　社会福祉法人福井県社会福祉協議会　〒910-8516　福井市光陽2丁目3-22
TEL（0776）24-2339　URL　http://www.f-shakyo.or.jp/
（1部　35円：購読料は会費に含まれます）